

## すべての子供の居場所づくりについて

資料ウ

## 1 これまでの学校の様子は・・・・

- 增加する不登校児童生徒
- 増加する支援が必要な子供
- 今まで通りにいかず、困惑する教職員

子供も、  
教職員も  
困った！



## 2 現在の取組

## ○学校全体が校内教育支援センター

- 全教職員と方針を共通理解
- 多様な子供に対応する部屋の環境整備
- 自己決定・自己選択できる支援
- SC、SSW、教育センター等との連携
- 「困った・助けて」が言える教室・職員室の雰囲気づくり

## ○子供たちが「学びたい」と思える授業へ

- となみ授業スタンダードⅢの共有
- 個別最適な学び・協働的な学び、家庭学習にタブレット端末を効果的に活用
- 異年齢集団で話し合う全校道徳の実施
- R7年度はスタンダードⅢからⅣへ



【安心して過ごすことができる校内での居場所】



【授業におけるタブレット端末の効果的な活用】

【あたたかみがあり、何でも言い合える職員室】

## ○学校外での多様な居場所づくり

- 教育支援センター「ひよどり」の充実  
(1日の過ごし方を自己決定、学校とのケース会議)
- 学校や保護者へのフリースクールの周知  
(フリースクール説明会・情報交換会)



【フリースクール情報交換会】

# となみ授業スタンダードⅢ

R6.3

砺波市教育センター

## 【自立した学習者を育てるために】

- ①誰一人取り残さない「居場所」のある教室
- ②考えの深まりを自覚したら、メモ（ノートまたはタブレットに）
- ③振り返りによる自分の学びの言語化

主体的・対話的で深い学びを実現するポイント								
	(主体的・対話的)	(深い学び)						
導入	<p><b>考えてみたいと思える学習課題の提示</b></p> <p>【学習の見通しをもつ】 既習内容（系統性）や前時の確認、類似経験の想起、考える視点の提示 ・約7割の子供が「解けそうだ」と思えるようにする。</p> <p>【ゴールの姿をイメージできる】 ・学習課題を具体的な行動目標で表す。 例：「～について考え、〇〇にまとめよう」「～と～を比べ、説明しよう」</p>							
学び合い	<p><b>個の学びを深めるための場の工夫</b></p> <p>自分の考えをもつための「静の時間」とアウトプットする「動の時間」を効果的に組み合わせる。</p> <p><b>個別</b></p> <table border="1"><thead><tr><th>何を考えさせるのかを明確にする。</th><th>小集団</th><th>全 体</th></tr></thead><tbody><tr><td>・机間指導で状況を確認する。</td><td>話合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。</td><td>教師は、ファシリテーターとなる。 ・考え方を比較・分類・整理し、構造的な板書で可視化する。</td></tr></tbody></table>	何を考えさせるのかを明確にする。	小集団	全 体	・机間指導で状況を確認する。	話合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。	教師は、ファシリテーターとなる。 ・考え方を比較・分類・整理し、構造的な板書で可視化する。	<p>① 知識の概念的理解 例：複数の事実の共通点について問い合わせ、一般化する。</p> <p>② 教師の見取りと出場 例：考えの深まりを自覚した子供を取り上げ、全員で考える場をもつ。</p>
何を考えさせるのかを明確にする。	小集団	全 体						
・机間指導で状況を確認する。	話合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。	教師は、ファシリテーターとなる。 ・考え方を比較・分類・整理し、構造的な板書で可視化する。						
まとめ・振り返り	<p><b>まとめ・振り返りの時間の確保</b></p> <p>【まとめ】 本時の学習課題に対する学びのまとめ ・子供の言葉を生かす。短時間でまとめる。</p> <p>【振り返り】 学習内容や学び方、家庭で学習したいこと等の振り返り（5分） 例：「〇〇さんの考えを聞いて、違う視点に気付いたよ」「〇〇さんの学び方が参考になったよ」「家でもう少し難しい問題にチャレンジしよう」</p>	<p>③ 考えの深まりをメタ認知する振り返り 例：導入時（前時）の考え方から変容したことを探えられるようにする。</p>						

## 【心理的安全性の高い職員室】

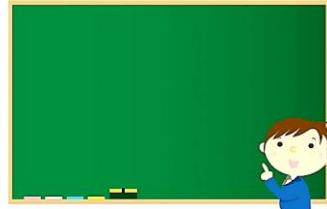
- ①居場所があり、あたたかみを感じる職員室
- ②分からぬことを自由に相談できる職員室

## 授業の心得

赤番号：内容の変更

### 【子供が落ち着く環境】

- ① 教室前面の掲示物は必要最小限にしています。
- ② **黒板全面**が使えるようになっています。
- ③ 子供の机の中・横は、必要な物を**精選**しています。
- ④ 黒板前に教卓等を置いていません。  
教師の机上・棚等は、**整然**としています。
- ⑤ 廊下等は、すっきりしています。



### 【教師の大切な役割】

<導入>

- ⑥ **テンポよく短時間**で行っています。※前時の確認、前時の適用問題の活用、映像の活用

<学び合い>

- ⑦ 子供が必要に応じて、**自由に席を離れて相談**できるようにしています。
- ⑧ 個別指導しながらも、絶えず**子供たち全体**を見ています。

※机間指導で立ち止まる時間は、原則10秒程度

- ⑨ **子供同士が関わる工夫**をしています。

※発表者の考えを別の子供が説明 ※学習形態の工夫（3～4人のグループが望ましい）

- ⑩ 発言に対する周囲の子供の反応を**観察**し、タイミングよく板書しています。
- ⑪ 板書は見やすい文字の大きさで、**端的に書いて**います。

<まとめ・振り返り>

- ⑫ 子供の言葉で学習の成果を短時間でまとめます。タブレット等を用いて振り返る時間を**確保**し、**相互承認**につなげます。

<授業全般>

- ⑬ **笑顔**を心がけ、子供と目で**キャッチボール**をしています。

- ⑭ 声や表情に**変化**をつけ、**丁寧**な言葉で話しています。

- ⑮ 無駄な言葉を削る**努力**をしています。

※タイムマネジメントの意識、一問一答の防止

- ⑯ 「間」を意識した話し方を心がけています。

※全ての子供の思考時間の確保

- ⑰ 気になる子供へ**継続**して声かけをしています。

※「声かけがないこと=してもよい」というメッセージ



### 【GIGAに関する手立て】

- ⑯ タブレットは机の横等の近くにあり、子供自らが**必要に応じて**使えるようにしています。
- ⑰ ソフトの操作等、子供同士で**教え合う関係**をつくっています。
- ⑱ 黒板と電子黒板、ノートとタブレットの効果的な**使い分け**を心がけています。
- ⑲ タブレットを利用して、一人一人の**考え方を把握**しています。

# となみ授業スタンダードⅣ（案）

R7.02

砺波市教育センター

## 【自立した学習者を育てる教師の役割】

- ①誰一人取り残さない「居場所づくり」
- ②教材研究で、各教科の見方・考え方を確認
- ③適宜、子供と学び方を共有・確認

※学び方を身に付けよう児童・生徒編参照

主体的・対話的で深い学びを実現するポイント								
	(主体的・対話的)	(深い学び)						
導入	<p>「考えてみたい」と思える学習課題の共有</p> <p>【意欲が高まる学習課題】 日常生活との関連 既習事項・経験とのずれ</p> <p>【学習の見通し】 既習内容（系統性）や前時の確認、類似経験の想起、 考える視点の提示 ・約7割の子供が「解けそうだ」を目安に学び合いに入る。</p>	 <ul style="list-style-type: none"><li>①本時の学び方を確認<ul style="list-style-type: none"><li>・ゴールの姿</li><li>・誰とどのように</li><li>・時間</li></ul></li></ul>						
学び合い	<p>個の学びを深めるための場の工夫</p> <p>【自己調整】 考えをもつための時間とアウトプットする時間自己決定</p> <p>個別</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>小集団</th><th>全 体</th></tr></thead><tbody><tr><td>何を考えたいのかを明確にする。 ・机間指導で状況を確認する。</td><td>話し合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。</td><td>教師は、ファシリテーターとなる。 ・子供たちの思考を止めないように支援する。</td></tr></tbody></table>		小集団	全 体	何を考えたいのかを明確にする。 ・机間指導で状況を確認する。	話し合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。	教師は、ファシリテーターとなる。 ・子供たちの思考を止めないように支援する。	<ul style="list-style-type: none"><li>②知識の概念的理解<ul style="list-style-type: none"><li>・複数の事実を一般化</li></ul></li><li>③教師の見取りと出場<ul style="list-style-type: none"><li>・困っている子供への支援</li><li>・教科の見方・考え方を働かせている発言等を価値付け</li><li>・まとめにつながる板書</li></ul></li></ul>
	小集団	全 体						
何を考えたいのかを明確にする。 ・机間指導で状況を確認する。	話し合いの視点・方法を明確にする。 ・全体を見渡して、必要な小集団に支援する。	教師は、ファシリテーターとなる。 ・子供たちの思考を止めないように支援する。						
まとめ・振り返り	<p>まとめ・振り返りの時間の確保(10分程度)</p> <p>【まとめ】 本時の学習課題に対するまとめ ・子供が自分の言葉でまとめを書けるようにする。</p> <p>【振り返り】 学習内容や学び方、家庭で学習したいこと等の振り返り 例：「〇〇さんの考えを聞いて、違う視点に気付いたよ」「〇〇さんの学び方が参考になったよ。次時に生かしたい」「家でもう少し難しい問題にチャレンジしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>④考え方の深まりをメタ認知する振り返り<ul style="list-style-type: none"><li>・導入時（前時）の考え方との変容に着目</li></ul></li></ul>						

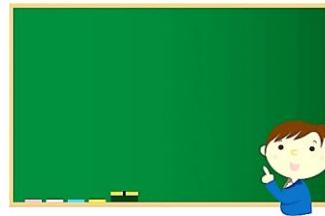
## 【心理的安全性の高い職員室】

- ①居場所があり、あたたかみを感じる職員室
- ②分からぬことも自由に相談できる職員室

# 授業の心得

## 【子供が落ち着く環境】

- ① 教室前面の掲示物は必要最小限にしています。
- ② 黒板全面が使えるようになっています。
- ③ 子供の机の中・横は、必要な物を精選しています。
- ④ 黒板前に教卓等を置いていません。  
教師の机上・棚等は、整然としています。
- ⑤ 廊下等は、すっきりしています。



## 【教師の大切な役割】

<導入>

- ⑥ テンポよく短時間で行っています。※前時の確認、前時の適用問題の活用、映像の活用

<学び合い>

- ⑦ 子供が必要に応じて、席を離れて相談できるようにしています。

- ⑧ 個別指導しながらも、絶えず子供たち全体を見ています。

※机間指導で立ち止まる時間は、原則10秒程度

- ⑨ 子供同士が関わる工夫をしています。

※発表者の考えを別の子供が説明 ※学習形態の工夫（3～4人のグループが望ましい）

- ⑩ 発言に対する周囲の子供の反応を観察し、タイミングよく板書しています。

- ⑪ 板書は見やすい文字の大きさで、端的に書いています。

<まとめ・振り返り>

- ⑫ 子供が自分の言葉で学習の成果を短時間でまとめます。タブレット等を用いて振り返る時間を確保し、相互承認につなげます。

<授業全般>

- ⑬ 笑顔を心がけ、子供と目でキャッチボールをしています。

- ⑭ 声や表情に変化をつけ、丁寧な言葉で話しています。

- ⑮ 無駄な言葉を削る努力をしています。

※タイムマネジメントの意識、一問一答の防止

- ⑯ 「間」を意識した話し方を心がけています。

※全ての子供の思考時間の確保

- ⑰ 気になる子供に対してさりげなく支援をしています。



## 【タブレット等の有効活用】

- ⑱ タブレットは机の横等の近くにあり、子供自らが必要に応じて使えるようにしています。
- ⑲ ソフトの操作等、子供同士で教え合う関係をつくっています。
- ⑳ 黒板と電子黒板、ノートとタブレットの効果的な使い分けを心がけています。
- ㉑ タブレットを利用して、一人一人の考え方を把握しています。
- ㉒ タブレットを利用して、子供同士が考え方を共有できるようにしています。